

まちづくり提案 2025 感想

中村祐司（指導教員）

研究室活動の柱あるいは恒例行事として参加し続けてきたまちづくり提案も、遂に今回が最後の参加となった。確かに感慨深いものはあるが、それよりもこれまで毎回参加するごとに、新鮮で前向きな気持ちになったし、今回も例外ではなかった。なんだかとても清涼というか爽やか感に包まれるのだ。なぜだろう。

それは若者による奮闘のプロセスが教員に元気や活力を与えてくれるからであろう。確かに今回、個人的には日程や発表の時間帯の変更への対応に苦慮したことは事実である。しかし、そんなことは終わってみれば些末なことだと気付いた。

各研究室とのやり取りや会場確保一つをとっても、市が全面的に担ってくれるというのは何とありがたいことか。このような貴重な舞台を用意し続けてくれたことに感謝申し上げたい。

大学や研究室に限った話ではないだろうが、組織内だけで完結する活動はどうしても広がりに欠く。所属する組織外にアプローチできる活動は、知的ダイナミズムを生む。いろいろな刺激を受けることで、知性空間の拡大につながる。

ゼミ生はそのことを実感したに違いない。

そして、卒業してからある時点（それが数年後、10年後、20年後であろう）で、提言論文、ポスター、プレゼン資料の作成に懸命に取り組んだことと、そのような貴重な機会を経験したことを、ありがたく懐かしく誇らしく思い出すに違いにない。それこそが学びの財産なのだ。

実は、若者と接する大学教員のやりがいや生きがいはこうした点にもある。

長年にわたって参加を継続できたのも、その時々のゼミ生が自分たちでテーマを設定し、チームワークを發揮し、精一杯の力を發揮し続けてきたからである。その意味でまちづくり提案というリレーのバトンをつないでくれた、これまでの研究室メンバー全員に感謝したい。

宇都宮大学行政学研究室

高橋蛍

このまちづくり提案を通して実際に調べてみないと分からぬことがあるということを実感しました。当初はライトキューブ宇都宮がここまで予約状況が切迫しているとは思わず、利用促進の取り組みを提案することを想定していました。しかし、ライトキューブ宇都宮職員の方や宇都宮市役所の方へのインタビューを通して課題がそこではないとわかり、課題に合わせた提案を行うことができました。そのため具体的な提案を行うことができた

のではないかと達成感を味わっています。

発表会では他の学校の提案を通して雇用や地域の全体的な改革など、様々な考え方や多様なアプローチを学ぶことができ、視野を広げることができました。また、その後のポスター発表を通して多くの方と意見を交わし、私達の提案にも意見や質問をいただいたことで改めて自分たちの提案を見直すことができたため非常に有意義な発表会に参加させていただいたと思います。

奈良崎実香

まず、半年にわたって取り組んできた提案が無事終了したことを大変嬉しく思います。テーマ設定から始まり、どのような提案を行うか、そのためにどのような調査が必要なのかを考える中で、多くの方のご尽力をいただき発表までたどり着くことができました。ライトキューブ宇都宮は駅前ということもあり身近な建物ではありましたが、これまで利用したことなく、少し距離の遠い存在でした。しかし、今回ライトキューブ宇都宮について調査を進める中で、私個人としてもより近い存在に感じることができたことは、今回の取り組みの大きな意味の一つだと感じています。

発表後の講評では、審査員の方からお褒めの言葉をいただくことができ光栄に感じています。宇都宮でこんなことをしよう！という提案ではなく、ライトキューブ宇都宮の申請手続きに特化したよりハード面からのアプローチをした点が新鮮だったとの評価を多くいただきました。提案会を通じて他団体の皆様と交流することもでき、大変有意義な時間となりました。